

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：32701

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653128

研究課題名(和文) ペットフレンドリーなコミュニティの条件 コミュニティ疫学試論

研究課題名(英文) Pet friendly community

研究代表者

大倉 健宏 (Okura, Takehiro)

麻布大学・その他部局等・准教授

研究者番号：00279548

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：2012年から2014年にかけて実施した国内および米国での調査結果を分析し、「ペットフレンドリーなコミュニティ」を大都市の文脈から論じた。本研究では「飼い主」と「公園」および「ペット友人」をネットワークと考える。「ペットフレンドリーなコミュニティ」が飼い犬を中心として、ペットと共生できる街を提案する意義は大きいと考える。そこでは下位文化による結合が、「相談」「親交」「実用的」のいずれにも収斂しえない、住民の「ペットフレンドリーなコミュニティにおけるシビリティ」が想定されるだろう。

研究成果の概要(英文)：One part of the research investigates the epidemiological aspect, and the other the sociological aspect. As a result of this research, we would like to find out what is or are the critical conditions for building “pet-friendly communities” Recently, as smaller dogs have increased in popularity, the tendency for dogs to be kept indoors has also increased, thus leading to closer contact between pets and their owners. As a result, diseases exchanged between dogs and their owners have been more frequently observed.

While the spread of dental caries (tooth decay) between dogs and owners does not occur, it is possible that periodontal diseases (gum diseases) could be spread between them. Our study focuses on the bacteria “Campylobacter rectus”, a cause of periodontal disease, and aims to identify this bacteria in dogs and their owners by conducting a DNA level analysis.

研究分野：社会学

キーワード：コミュニティ疫学 下位文化 コミュニティ ペット 国際比較調査

1. 研究開始当初の背景

本研究は、記述疫学的な方法と地域調査を併用して、ペットをめぐる実態の一部を示し、ペットフレンドリーなコミュニティモデル構築を試みることである。地域調査においては、それぞれの地域文脈があり、国際的な比較を行うことの困難は大きい。しかしながら、疫学研究という、地域の文脈を超えた比較を前提とする学問分野との出会いにおいて、広がりある比較が可能になると考えた。

2. 研究の目的

本研究において試論として位置付ける、コミュニティ疫学では、社会学的な調査手法である地域調査と、疫学的な調査を地域レベルと併用し、PCR 分析という DNA レベルでの分析を絡めながら、ペットフレンドリーなコミュニティの条件を、実証的に明らかにする。また、疫学研究の大きな長所である国際比較を行い、試論としての以下の成果を提出する。

1 つは従来の社会調査法にたいして、新たなアプローチを提案することである。疫学の一分野である記述疫学は、社会調査と似た方法を用いており、前述した厚みのあるピントを構築できるということを示したい。

2 つ目は個人、家族、居住、ネットワーク、コミュニティを、ペットを中心に据えて、新たなコミュニティのイメージを描くことである。具体的には、2012 年秋に実施した麻布大学附属動物病院での調査、2013 年夏に実施したアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ市およびニューヨーク州ブルックリン市での調査、2014 年夏にブルックリン市およびバークレイ市で実施した調査結果を分析し、「ペットフレンドリーなコミュニティ」を大都市の文脈から論じたいと考えている。

3. 研究の方法

2013 年および 2014 年に実施した、74 票からなるアメリカ調査の結果を分析する。2013 調査および 2014 調査では記述

疫学手法を用いた。人獣共通感染症としての歯周病に注目し、ヒトから飼い犬に伝播する歯周病菌「カンピロバクター・レクタス」をターゲットとした。このことを疫学的に明らかにするため、飼い主と飼い犬の唾液を収集した。この調査結果と唾液サンプルの PCR 分析、飼い主と飼い犬の間に「カンピロバクター・レクタス」が確認された事例の記述疫学的分析を行う。さらに疫学的に重要な変数である住宅様式と飼い主の年齢から、回答者の類型化を試みる。

4. 研究成果

麻布大学環境社会学研究室による ”Pet-friendly Community Research 2013” (以下 2013 調査と表記) は、2013 年 9 月 1 日から 11 日にわたって実施された。質問紙調査は 9 月 2 日 (米国祝日) 朝カリフォルニア州サンフランシスコ市の住宅街にある Alamo Square park において、9 月 7 日 (土) と 8 日 (日) 朝ニューヨーク州ブルックリン市 Fort greene Park にて実施した。合計 43 票、そのうち無効票 2 票、有効回答 41 票、サンフランシスコ (CA) 調査 18 票、ブルックリン (NY) 調査 23 票である。2014 年には ”Pet-friendly Community Research 2014” (以下 2014 調査と表記) を、2014 年 8 月 28 日から 9 月 9 日にわたって実施した。質問紙調査は 8 月 30 日 (土) 31 日 (日) と 9 月 1 日 (米国祝日) 午前ニューヨーク州ブルックリン市 Hillside park および Pier 6 Dog park と Fort greene Park において、9 月 6 日 (土) 7 日 (日) 午前カリフォルニア州バークレイ市 ノースバークレイ駅の住宅街にある Ohlone park において実施した、合計 33 票、有効回答 33 票、ブルックリン (NY) 調査 23 票、バークレイ (CA) 調査 10 票である。これらの調査を通じて、74 票と唾液サンプル 164 本を集めることができた。

犬を飼育しやすい地域のイメージについて、「広い空間や公園がある」という回答が最も多く、その他わずかな回答として「ペ

「ペット友人が近くにいる」、「動物病院が近い」、「ペット関連の店舗が近くにある」があった。

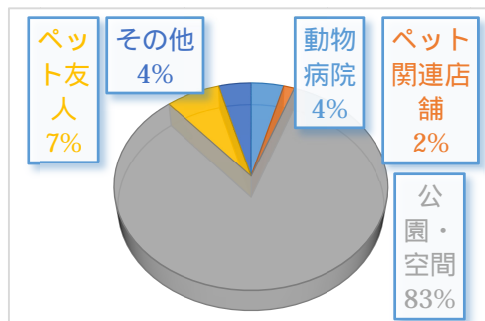


図1: ペットフレンドリーなコミュニティのイメージ (N=71)

また、「飼育に必要な施設」と「ペットフレンドリーなコミュニティのイメージ」は、大きく異なっている。飼育に必要な施設としては、「公園」という回答が最も多く68%であり、「動物病院」は24%であった。

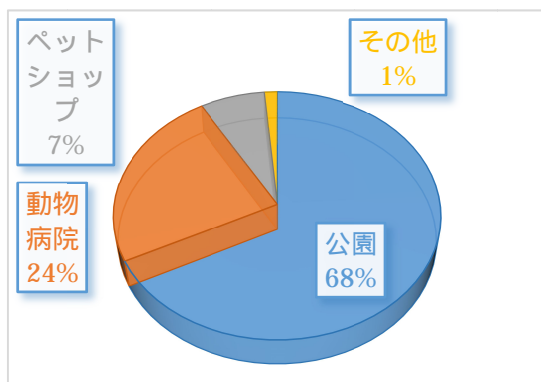


図2: 飼育に必要なペット関連施設 (N=71)

この両者については飼い犬の犬齢によって説明された。「動物病院」は犬齢の高い飼い主による回答であった。一方で、「ペットフレンドリーなコミュニティのイメージ」は圧倒的に「公園」83%と回答されている。「ペット友人が近くに住んでいる」はわずか7%であった。本報告では「飼い主」と「公園」および「ペット友人」をネットワークと考える。

4 結論

「ペットフレンドリーなコミュニティ」が飼い犬を中心として、ペットと共生できる街を提案する意義は大きいと考える。そ

こでは下位文化による結合が、「相談」「親交」「実用的」のいずれにも収斂しえない、住民の「ペットフレンドリーなコミュニティにおけるシビリティ」が想定されるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

大倉健宏、ペットフレンドリーなコミュニティの条件 コミュニティ疫学試論、日本都市社会学会、2015年9月12日、「静岡県立大学:静岡県・静岡市」.

大倉健宏、ペットフレンドリーなコミュニティの条件 コミュニティ疫学試論、日本学会、2015年9月19日、「早稲田大学:東京都・新宿区」.

〔図書〕(計1件)

大倉健宏、ハーベスト社、「ペットフレンドリーなコミュニティの条件 コミュニティ疫学試論」2015、200ページ予定.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

大倉 健宏 (Takehiro Okura) 麻布大学生

命・環境科学部環境科学科・准教授
研究者番号：00279548

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
村上 賢 (Satoru Murakami) 麻布大学獣医
学部獣医学科・教授 研究者番号：80271360

加藤行男 (Yukio Kato) 麻布大学獣医学部獣
医学科・准教授 研究者番号：00224551